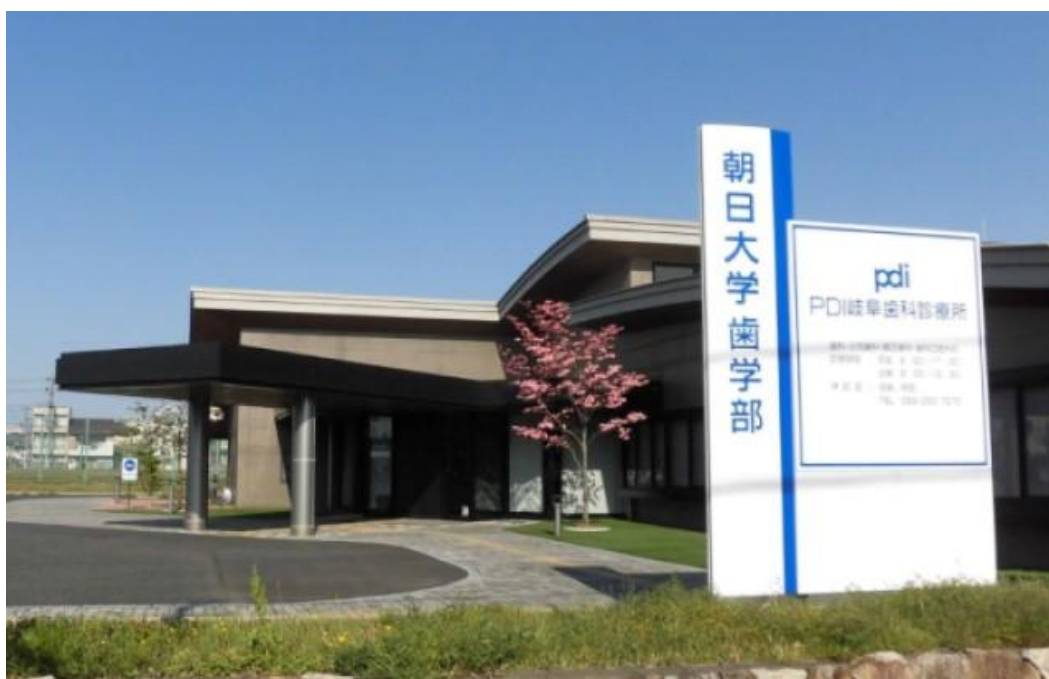


2026 年度

朝日大学 P D I 岐阜歯科診療所

研修プログラム



2026 年度 朝日大学 P D I 岐阜歯科診療所研修プログラム

1. 歯科医師臨床研修プログラムの目的

患者中心の全人的医療を理解し、歯科医師に求められる基本的臨床能力（知識、技能、態度）を身につけ、さらに患者に信頼される歯科医師としての人格の涵養に努めるとともに、近年の少子・高齢社会に伴う疾病構造の変化や国民の歯科医療に対するニーズの高度・多様化に適切に対応できる、良質で先進的な歯科医療を提供し得る能力を持つ歯科医師となるための生涯研修の第一歩とする。

2. 歯科医師臨床研修の目標 （外来診療：259 症例・訪問診療：8 症例）

（1）ねらい

- ①歯科医師としてふさわしい態度を身に付け、患者及び家族とのよりよい人間関係を確立する。
- ②全人的な視点から得られた医療情報を理解し、それに基づいた総合治療計画を立案する。
- ③歯科疾患と障害の予防及び治療における基本的技能を身につける。
- ④一般的によく遭遇する応急処置と頻度の高い歯科治療処置を確実に実施する。
- ⑤歯科診療時の全身的偶発症・事故に適切に対応する。
- ⑥自ら行った処置の経過を観察、評価し、診断と治療に常にフィードバックする態度・習慣を身に付ける。
- ⑦専門的知識や高度先進的歯科医療に目を向け、生涯研修への動機付けをする。
- ⑧歯科医師としての社会的役割を認識し、実践する。

（2）到達目標

到達目標は「歯科医師としての基本的価値観」、「資質・能力」、「基本的診療業務」の3つで構成され、基本的診療業務については、「基本的診療能力等」と「歯科医療に関連する連携と制度の理解等」に分類し、それぞれの構成各項目について具体的な到達目標を示している。なお、基本的診療業務に示した各項目の具体的な個別目標については各研修歯科医に配布する研修プログラム評価帳に必要症例数等を提示している。

3. プログラムの特徴

- （1）保存・補綴領域の一般的な歯科疾患の治療のほか、インプラント、小児歯科、矯正歯科そして口腔外科など歯科医学各領域の疾患を治療する専門医を持つ指導歯科医との密な連携によって一口腔一単位の総合歯科診療を行う。
- （2）在宅・訪問歯科診療を頻度高く体験できる。（火～金曜日に実施。火曜日・水曜日は午前と午

後、他の曜日は午後)

- (3) 研修歯科医の自己研鑽のため院内技工室や診療用チェアーを診療時間外に使用できる。
- (4) 協力型(Ⅱ)臨床研修施設である本学大学病院(朝日大学病院)で病棟研修を行うことができる。
- (5) 院内で定期的に行う症例報告会や症例検討会などに参加できる。
- (6) 本研修プログラムにおける成績優秀者は、希望により後期研修(1年間)を継続できる。
- (7) 明海大学歯学部・朝日大学歯学部生涯研修部が実施している生涯研修プログラム(講義)の一部を無料で受講できる。また、高度で先進的な専門的医療を提供している外部講師の実践症例を中心とした講演を聴講できる。
- (8) HeartCode BLS For RQI 研修(e ラーニングとスキルトレーニングが必修課題である)。

4. 募集定員

10名

5. 研修プログラムの概要

研修期間 : 2026年4月1日～2027年3月31日

(1) 朝日大学 PDI 岐阜歯科診療所 : 11ヶ月

本診療所で1年間の研修を行うが、研修初期には指導歯科医が行う患者診療の見学、介助を行わせながら、個々の研修歯科医の診療能力を模型、あるいは相互による演習などで見極めて、診療スキルの確認ができた者から、順次一口腔一単位の総合歯科診療の実践と在宅・訪問歯科診療を体験させる。その後は厚生労働省が設定する臨床研修の到達目標である「歯科医師としての基本的価値観」、「資質・能力」、「基本的診療業務」を1年間にわたり反復研修する。また、在宅・訪問歯科診療を頻度高く体験することによって、医科歯科連携、介護などの地域包括支援や歯科衛生士・歯科技工士などのコ・デンタルスタッフそして歯科医師の社会的役割を深く理解する。

なお、協力型(Ⅱ)臨床研修施設及び研修協力施設では次の研修を行う。

(2) 朝日大学病院 : 病棟研修(18日間)

- ①研修実施責任者 : 畠山 大二郎(准教授・日本口腔外科学会口腔外科専門医)
- ②指導歯科医 : 谷口 裕重(教授・日本老年歯科学会専門医)
- 江原 雄一(准教授・日本口腔外科学会口腔外科認定医)
- 上田 順宏(准教授・日本口腔外科学会口腔外科認定医)
- 長縄 鋼亮(講師・日本口腔外科学会口腔外科認定医)

渡邊 一弘（講師・日本口腔外科学会口腔外科認定医）

原田 尚武（助教・日本口腔外科学会口腔外科認定医）

松下 貴裕（助教・日本口腔外科学会口腔外科認定医）

鵜飼 哲（助教・日本口腔外科学会口腔外科認定医）

高橋 萌（助教）

名知 ひかる（准教授・日本歯科麻酔学会認定医、歯科麻酔専門医）

（３）朝日大学医科歯科医療センター ： 歯科麻酔研修（６日間）

①研修実施責任者 ： 半田 俊之（教授・日本歯科麻酔学会認定医、歯科麻酔専門医）

②指導歯科医 ： 後藤 隆志（准教授・日本歯科麻酔学会認定医、歯科麻酔専門医）

岸本 敏幸（講師・日本歯科麻酔学会認定医、歯科麻酔専門医）

（４）岐阜市保健所 ： フッ化物塗布・１０ヶ月健診・１歳６ヶ月健診・３歳健診（１日間）

研修実施責任者 ： 野村 隆之

（５）研修歯科医の指導体制

指導歯科医の直接の指導を中心として行う。

６．P D I 岐阜歯科診療所の歯科医師臨床研修の到達目標

歯科医師が歯科医師としての人格を涵養し、将来専門とする分野にかかわらず、歯科医学及び歯科医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身につけるため、次のとおり到達目標に対する研修を本施設内及び協力型（Ⅱ）臨床研修施設（朝日大学病院、朝日大学医科歯科医療センター）並びに研修協力施設（岐阜市保健所）で行う。

A. 【歯科医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）】

１）社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

２）利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともに QOL に配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

３）人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心をもって接する。

4) 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B.【資質・能力】

1) 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

2) 歯科医療の質と安全管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 歯科診療の特性を踏まえた院内感染対策について理解し、実践する。
- ⑤ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

3) 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題点について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 頻度の高い疾患について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。
- ④ 高度な専門医療を要する場合には適切に連携する。

4) 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する。
- ③ 患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ④ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

5) コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。

- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

6) チーム医療の実践

医療従事者をはじめ患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る。
- ② 多職種が連携し、チーム医療を提供するにあたり、医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ③ 医療チームにおいて各構成員と情報を共有し、連携を図る。

7) 社会における歯科医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する。

- ① 健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 地域の健康問題やニーズ把握など、公衆衛生活動を理解する。
- ③ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ④ 地域包括ケアシステムを理解し、その増進に貢献する。
- ⑤ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する。

8) 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点に対応する能力を身につける。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解する。

9) 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の歯科医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成に携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、歯科医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌等を含む）を把握する。

C. 基本的診療業務

1. 【基本的診療能力】

1) 基本的診察・検査・診断・治療計画

【一般目標：GIO】

患者の状態に配慮した適切な歯科保健医療を提供するための医療面接、基本的な診察、検査、診断、診療計画の立案に関する知識、技能、態度を身につける。

【到達目標：SBOs】（61 症例）

- ① 患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。（10 症例）

- ② 全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。(10 症例)
- ③ 診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。(10 症例)
- ④ 病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。(10 症例)
- ⑤ 診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。(10 症例)
- ⑥ 必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。(11 症例)

※①から⑥までを一連の流れとして経験することが望ましい。

2) 基本的臨床技能等

【一般目標：GIO】

日常臨床で高頻度に遭遇する歯科疾患や機能障害を有する患者に対して、適切に対処できるよう基本的な技能を修得する。

【到達目標：SBOs】(88 症例)

- ① 歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技(フッ化物塗布、予防填塞 等)を実践する。(10 症例)
- ② 一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。(34 症例)
 - a 歯の硬組織(う蝕処置、コンポジットレジン修復、インレー修復 等)
 - b 歯髄疾患(覆髄、抜髄、感染根管処置 等)
 - c 歯周病(歯周基本処置(スケーリング・ルートプレーニング、TBI、咬合調整、暫間固定 等))
 - d 口腔外科疾患(抜歯、消炎処置、切開、縫合 等)
 - e 歯質と歯の欠損(歯冠補綴、欠損補綴 等)
 - f 口腔機能の発達不全、口腔機能の低下(口腔機能管理、口腔機能訓練 等)
- ※ a～f 各項目について、処置ごとに経験したところで1 症例とする。
- ③ 基本的な応急処置を実践する。疼痛、義歯破損、補綴物の脱離、歯・口腔顎顔面の外傷等の応急処置を実践する。(4 症例)
- ④ 歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサイン(血圧、意識、心拍、呼吸、酸素飽和度、体温 等)を観察し、全身状態を評価する。(1 症例)
- ⑤ 診療に関する記録や文書(診療録、処方せん、歯科技工指示書 等)を作成する。(19 症例)
- ⑥ 医療事故の予防に関する基本的な対策について講義、研修会、インシデント・アクシデント発生時のレポート等で理解し、日々の診療で実践する。(20 症例)

3) 患者管理

【一般目標：GIO】

全身状態に配慮が必要な患者に対して歯科治療を行う際の患者管理に関する知識、技

能、態度を修得する。

【到達目標：SBOs】(32 症例)

- ① 歯科治療上問題となる全身的な疾患（高血圧、糖尿病、喘息、心血管疾患、脳血管疾患等の医療管理の対象となる疾患）、服用薬剤（降圧剤、抗凝固薬、BP 製剤といった歯科疾患と密接に関連する薬剤）等について説明する。（3 症例）
- ② 患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。（1 症例）
- ③ 全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。（朝日大学医科歯科医療センター）（1 症例）
- ④ 安全で快適な歯科治療を提供するために、精神鎮静法及び全身麻酔法を実践する。（朝日大学医科歯科医療センター）
 - a 静脈内鎮静法（4 症例）
 - b 全身麻酔法（2 症例）
- ⑤ 歯科診療時の主な併発症や偶発症（血管迷走神経反射、アナフィラキシーショック、過換気症候群 等）への基本的な対応法を講義、レポート、訓練で理解し、日々の診療の中で実践する。（5 症例）
- ⑥ 入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する。（朝日大学病院）
 - a 入院患者の口腔ケア・口腔リハ・周術期口腔機能管理の実践（4 症例）
 - b 手術室での歯科口腔外科・医科系症例の全身麻酔処置及び手術見学（4 症例）
 - c 多職種連携（医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師等）に参加（4 症例）
 - d 入院患者の歯科治療（4 症例）

4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供

【一般目標：GIO】

患者の状態やライフステージに応じた安心・安全な歯科治療を適切に実践する。

【到達目標：SBOs】(14 症例)

- ① 妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。（5 症例）
- ② 各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。（5 症例）
- ③ 在宅療養患者等に対する訪問歯科診療を経験する。（4 症例）

5) 経過評価管理（PDI 独自項目）

【一般目標：GIO】

自ら行った治療の経過を観察評価するために、診断および治療に対するフィードバックに必要な知識、態度及び技能を習得する。

【到達目標：SBOs】(3 症例)

- ① リコールシステムの重要性を理解する。（1 症例）
- ② 治療の経過を評価する。（2 症例）

③ 予後を推測する。

6) 予防・治療の情報収集 (P D I 独自項目)

【一般目標：GIO】

高度で先進的な医療を行うために必要な専門的知識や技術を理解する。

【到達目標：SBOs】(17 症例)

専門的分野の知識を収集する。

2. 【歯科医療に関する連携と制度の理解】

1) 歯科専門職の連携

【一般目標：GIO】

歯科保健医療を行うにあたって、歯科衛生士、歯科技工士等の歯科専門職の役割を理解し、連携を図る。

【到達目標：SBOs】(5 症例)

- ① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。(2 症例)
- ② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。(2 症例)
- ③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解し、実際に多職種チームに参加し、歯科専門職の役割を理解した上で、レポートを作成する。(1 症例)

2) 多職種連携、地域医療

【一般目標：GIO】

地域包括ケアシステムにおける多職種連携による質の高い歯科保健医療を提供するための歯科医の役割に関する知識・技能・態度を修得する。

【到達目標：SBOs】(12 症例)

- ① 地域包括ケアシステムについて講義や実際にその一員になることで理解し、レポート等で説明する。(1 症例)
- ② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割についてレポートを作成し、口頭試問等で説明する。(1 症例)
- ③ 在宅療養患者や介護施設等の入所者に対する介護関係職種が関わる多職種チームについて、チームの目的を理解し、参加する。(3 症例)
- ④ 訪問歯科診療の実施にあたり、患者に関わる医療・介護関係職種の役割を理解し、連携する。(3 症例)
- ⑤ がん患者等の周術期等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。(朝日大学病院)
 - a 周術期等口腔機能管理の目的及び各専門職の役割を講義や実際に現場に参加することで理解し、レポートを作成し、口頭試問等で説明する。(1 症例)
 - b チーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。(1 症例)
- ⑥ 歯科専門職が関与する多職種チーム（例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリ

テーションチーム、口腔ケアチーム等）について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する。（朝日大学病院）

- a 多職種連携の目的及び各専門職の役割を実際に参加することで理解する。（1 症例）
- b 多職種チーム医療（摂食嚥下リハビリテーションチーム又は口腔ケアチーム）に参加し、関係者と連携する。（1 症例）

3) 地域保健

【一般目標：GIO】

歯科医師の地域公衆衛生に果たす役割を理解し、地域歯科保健活動に参画するための知識、技能、態度を修得する。

【到達目標：SBOs】（岐阜市保健所）（3 症例）

- ① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を講義等で理解し、レポートを作成し、口頭試問等で説明する。（1 症例）
- ② 保健所等における地域歯科保健活動を講義等で理解し、レポートを作成し、口頭試問等で説明する。（1 症例）
- ③ 保健所等における地域歯科保健活動を経験する。（詳細は項番 12 を参照）（1 症例）

4) 歯科医療提供に関連する制度の理解

【一般目標：GIO】

各種の医療法・歯科医師法規及び関連する医療保険制度の目的やシステムを理解し、適切な歯科保険診療を実践する。

【到達目標：SBOs】（32 症例）

- ① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを講義等で理解し、レポートを作成し、口頭試問等で説明する。（1 症例）
- ② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。（360 度評価の実施）（30 症例）
- ③ 介護保険制度の目的と仕組みを講義等で理解し、レポートを作成し、口頭試問等で説明する。（1 症例）

7. 臨床研修施設の概要

- （1）管理型臨床研修施設：朝日大学 PDI 岐阜歯科診療所＋協力型（Ⅱ）臨床研修施設＋研修協力施設
- （2）臨床研修施設長：大森 俊和（所長）
- （3）研修管理委員長：大森 俊和（所長）
- （4）プログラム責任者：小川 雅之（副所長）
- （5）副プログラム責任者：古澤 なつき（助教）
- （6）事務部門担当者：安田 聖司（事務課 係長）
- （7）研修期間：2026 年 4 月 1 日（水）～2027 年 3 月 31 日（水）

8. 募集及び採用方法

- (1) 採用方法
 歯科医師臨床研修マッチング協議会の歯科マッチングによる。
 (選考試験、提出書類及び臨床実習時の元ポートフォリオ等により採用希望順位を決定する。)
- (2) 対象者
 以下の①、②のいずれも満たす者とする。
 ①2026年4月1日時点で歯科医師免許を所持する者(予定者を含む。)
 ②歯科医師臨床研修マッチング協議会のマッチングに参加する者
- (3) 選考試験日
 第1回 2025年7月26日(土)
 第2回 2025年8月17日(日)
 *注) 本学卒業生は5年生の臨床実習時に作成した元ポートフォリオを持参すること
 他大学卒業生は、学部学生時に作成した元ポートフォリオが有れば持参すること
- (4) 選考会場
 朝日大学
- (5) 提出書類
 ①願書(所定の様式を使用のこと)
 ②履歴書(所定の様式を使用のこと)
 ③卒業(見込)証明書(本学在学生及び卒業生は不要)
 ④成績証明書
 ⑤返信用封筒
 (定型封筒(長形3号12×23.5cm)の表に返信先を記入し、110円切手を貼付したもの)
- (6) 応募期間
 2025年6月13日(金)～2025年7月11日(金)(必着)
 必ず郵送で応募のこと(持参した場合は受付できません。)
 問合せ先 〒501-0296 岐阜県瑞穂市穂積1851番地の1
 朝日大学 歯学部事務部 医科歯科医療センター事務課
 TEL 058-329-1112(代表) / FAX 058-329-1137

9. 処遇

- (1) 常勤又は非常勤の別 : 常勤
- (2) 基本手当 : 月額156,780円
- (3) 諸手当 : 通勤手当 月額上限15,000円
 時間外手当 1,251円/時間
- (4) 勤務時間 : 月曜～金曜 9:00～17:00(休憩1時間)
 土曜 8:30～12:30
- (5) 休日 : 日祝祭日、年末年始、夏季休暇等
- (6) 有給休暇 : 有(10日間)上記の休日含まず

- (7) 時間外勤務 : 原則として無
- (8) 日・当直 : 無
- (9) 宿舎 : 無
- (10) 施設内の研修歯科医室 : 有
- (11) 公的医療保険 : 日本私立学校振興・共済事業団
- (12) 公的年金保険 : 日本私立学校振興・共済事業団
- (13) 労働者災害補償保険 : 有
- (14) 雇用保険 : 有
- (15) 健康診断 : 有(朝日大学病院にて4月に実施する。)
- (16) 医師賠償責任保険(歯科医師): 加入(個人も強制加入)
- (17) 外部の研修活動
 - ・その他の研修活動は、参加可能であるが、費用は個人負担で、届け出を要する。

10. 研修の評価法

- (1) 毎日の記録・一週間の振り返り(臨床研修歯科医手帳など)などにより評価する。
- (2) 臨床能力やレポートをルーブリックにより評価(70%以上の達成で修了)する。
- (3) コ・デンタルスタッフ、同僚・先輩歯科医などによる360度評価
- (4) 症例報告・症例検討のプレゼンテーションをルーブリックにより評価(70%以上の達成で修了)する。
- (5) 必要な症例数(外来診療:259症例・訪問診療:8症例)の達成を条件とする。

11. 協力型(Ⅱ)臨床研修施設と研修内容

- (1) 朝日大学病院<病棟研修>
 - 1) 入院患者の口腔ケア・口腔リハビリ・周術期歯科診療(介助・診療参加)
 - 2) 歯科で入院中の患者の歯科治療(介助・診療参加)
 - 3) 歯科以外で入院中の患者の歯科治療(介助・診療参加)
 - 4) 多職種連携(医師・看護師・薬剤師・放射線技師・臨床検査技師・管理栄養士等)
 - 5) 全身管理に関する研修
- (2) 朝日大学医科歯科医療センター
 - 1) 歯科麻酔科研修
 - ① 静脈確保、気管挿管(マネキン実習)
 - ② 静脈確保(相互実習)
 - ③ 医療面接(静脈内鎮静法・全身麻酔法の術前説明と病歴聴取・患者研修)
 - ④ 静脈内鎮静法管理(患者研修)

- 2) 高度で先進的な専門医医療を提供している外部講師の実践症例を中心とした講演の聴講
(任意だが、希望者は要申請)
- 3) HeartCode BLS For RQI 研修 (e ラーニングとスキルトレーニング)
(費用は個人負担)

12. 研修協力施設と内容

- (1) 岐阜市保健所の各保健センターのいずれかにおいて、フッ化物塗布・10 ヶ月健診・
1 歳 6 ヶ月健診・3 歳健診を体験する。
 - 1) 岐阜中保健センター
 - 2) 岐阜南保健センター
 - 3) 岐阜北保健センター

研修施設一覧（管理型研修方式）

【管理型臨床研修施設】

研修施設番号	施設名	研修実施責任者
051160	朝日大学P D I 岐阜歯科診療所	大森 俊和

【研修協力施設】

研修施設番号	施設名	研修実施責任者
220023	岐阜市保健所中保健センター	野村 隆之
220024	岐阜市保健所南保健センター	野村 隆之
220025	岐阜市保健所北保健センター	野村 隆之

【協力型（Ⅱ）臨床研修施設】

研修施設番号	施設名	研修実施責任者
050021	朝日大学病院	畠山 大二郎
050020	朝日大学医科歯科医療センター	辰巳 順一